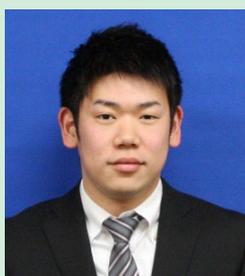


## 育児休業制度を利用させていただいて



大澤 遼

小白川キャンパス事務部総務課 地域教育文化学部事務室・主任

産休・育休取得期間  
約 4 ヶ月  
(2022.11～2023.2)

出産  
2022.5 (第1子)



### 【産休・育休に入るまで】

妻の妊娠を職場に報告させていただいた頃より、ありがたいことに、周囲から声をかけていただく機会があり、漠然と育児休業制度の利用を考え始めました。仕事を離れてご迷惑をおかけするのではと頭をよぎり、一旦考えるのを止め…を繰り返しながら、いよいよ出産の日を迎え、少しずつ利用の検討をしていました。

県外での里帰り出産であったため、出産直後は妻の両親の支援があり、(動き出しが遅いかもかもしれませんが) その期間に多くの先輩職員に子育ての体験談を伺った記憶があります。休業の時期や種類 (パパ育休など名称もいろいろあります)、給付金の手続きにも疎く、人事労務担当の方のお話やダイバーシティ推進室のホームページも重要な情報源のひとつでした。

そして、いよいよ山形の生活拠点に家族が戻ってからの時期 (生後2ヵ月頃) で育休取得を決意し、あらためて職場に報告。業務を引き継いでいただき、笑顔で送り出してくれた係の皆さんに感謝でいっぱいの子育スタートでした。

### 【産休・育休に入ってから】

ミルク、離乳食の準備、おむつ、お風呂、(一緒に暮らす犬が嫉妬しないよう機嫌取りも…🐾)、妻がやったほうが子どもは喜ぶのかなと思いながら、まずはなんでも挑戦の気持ちでやってみました。先輩方に聞いていたとおり、昼夜問わず体力勝負な面を痛感し、時にイライラしてしまうこともありましたが、どんどんできることが増えていく子どものそばにいる時間は、何よりも貴重でした。

ふとした瞬間に仕事が気になることもありましたが、「今しかできないことを楽しんで」と送り出してくれた係の皆さんはこういう状況を望んでいないだろうと思い改めたことも、今は懐かしく思います。仕事から生活を切り替えるのも、はじめは少し難しかったような気がします。

給与支給が停止したこと、給付金や児童手当が初めて振り込まれたこと、休業中の税金の臨時支払いがあることなど、お金の変化を実感したのもこの時期だったと思います。上述したように、これまでに教えていただいた知識が役立ちました。

### 【産休・育休が明けて】

3月に業務復帰して仕事感を取り戻しながら、年度末と年度初めの慌ただしさを感じていました。小白川キャンパス保育所に通い始めた時期でもあり、夕方は定時で帰宅、変則的に時間休暇も取得するなど、係の皆さんに大きな心で支えていただきました。職場のすぐ近くで信頼できる保育所の先生方が子どもを見てくれている安心感も大きいと感じています。引き続き、業務も子育ても真摯に取り組んでいきたいと感じる毎日です。

### 【最後にひとこと】

育児休業制度の利用にあたっては、多くの方の理解に助けいただきました。子育てに限らず、山形大学で働く教職員の皆さんがライフステージを大切に、その時々で働き方の選択ができるような制度と心が広がっていくといいなと思います。また、仕事を補ってくれる同僚へ恩返しができるよう、制度を利用する本人の心配りも大切にしたいと、僭越ながら感じました。私もその一助を担うことができるよう、微力ながら励んでいきたいです。